

若年性認知症相談支援マニュアル(概要)

- 本マニュアルは、東京都若年性認知症総合支援センターに対する3年間の相談実績を普遍化したもので、多くのケース支援に基づいて作成されていることを特徴とする。
- その内容は、相談別に若年性認知症支援コーディネーターが実施している基本的なアセスメント、サポート方法をまとめ、実際にサポートしたケースを本人が特定されないように変更して掲載する予定である。
- 若年性認知症は制度の間にあるため、容易に制度・サービスを利用できるとは限らない。従って、制度の併用や制度を利用する際の課題、各相談に応じて生じやすい問題など、様々な場合に対応できるように留意点も記載する予定である。

	目次	内容とねらい
はじめに	若年性認知症相談支援マニュアル使用について	若年性認知症の相談支援技術取得の意義について理解すると共に、到達目標について知る
第1章	若年性認知症の基礎知識	
	1 若年性認知症とは	定義と国や都の実態調査の概要について理解する
	2 若年性認知症の原因疾患	若年性認知症の原因疾患と早期に起こりやすい特徴について理解する ※若年性認知症ハンドブック(東京都)より抜粋
	3 若年性認知症の生活上の特徴	国際生活機能分類を用いて、若年性認知症を生活機能障害の側面からとらえ、環境因子による影響による複雑な障害構造について理解する
	4 若年性認知症の社会的な課題	若年性認知症支援部会報告書を基に整理した、高齢期認知症と異なる社会的な課題について理解する
第2章	若年性認知症に対する相談支援の基本	
	1 若年性認知症の相談の特徴	東京都若年性認知症総合支援センターで受け付けた相談結果を紹介し、若年性認知症に多い相談内容について知る
	2 若年性認知症に対する基本的な相談支援の流れ	
	3 アセスメント	若年性認知症に対する多面的なアセスメントについて学ぶ。若年性認知症支援連携シートを用いて、必要なアセスメント項目と方法を知り理解する。また本人・家族の状態把握に用いる質問紙法の活用についても理解する。
	4 関係機関の連携	若年性認知症の相談支援における関係機関との連携の必要性について理解する。またカンファレンスの開催における留意点などについても知識を得ると共に、東京都若年性認知症総合支援センターや認知症疾患医療センターの役割について理解し、実際に活用しながら連携する方法について知る。
第3章	若年性認知症の個別ニーズに応じた相談支援	東京都若年性認知症総合支援センターに対する相談に対して行った基本的な支援について、各項目ごとに相談内容・アセスメント・サポートに分類して述べる。基本的支援に加えて留意する支援について記載すると共に、ケースも紹介して理解を深めやすくする。
	1 若年性認知症と診断される前の相談支援	診断される前の本人の不安に対する支援と客観的アセスメント、および医療機関との連携方法について理解する
	2 診断直後の相談支援	診断直後のショックについて理解し、本人・家族の心理回復過程を理解しながらサポートする方法を学ぶ
	3 就労と経済的な問題に対するケアについて	就労と経済的問題という関連性のある内容について、同時にサポートする必要性とその方法について理解する ※若年性認知症ハンドブック(東京都)より一部抜粋
	4 若年性認知症の人に対するケアについて	高齢者と異なる特徴を知り、軽度の場合の病気に対する受容やピアサポートの必要性、仕事や役割の喪失からの第2の生活へ移行するサポート、重度の状態になった場合のBPSDへの対応方法など、進行に応じたケア方法について理解する
	5 若年性認知症の家族に対する支援について	家族の疲労や不安を知り、副介護者や相談支援者など家族を取り巻く環境や家族の状態に応じたサポート方法について理解する
	6 若年性認知症の社会資源の活用方法について	認知症の進行度や原因疾患に応じた社会資源の選択方法について学ぶ。また地域社会資源への適応に関する支援の仕方、およびカフェなど新たな社会資源の作り方について知識を得る。
参考資料	1 アセスメントシート・連携シート 若年性認知症支援連携シート 地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート うつ性自己評価尺度(self-rating depression scale)	

